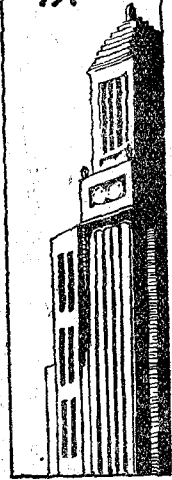


路政春秋



北九州にあがる歡喜の聲は關門隧道から

交通上産業上の大革新事業で國防上からも喫緊の重要事なりと絶叫したのは福岡縣會の議席で行つた。陳情委員は上京した、内閣に内務に大藏に陸軍に海軍に逡信に企畫院に圓タクを乗り廻はした甲斐があつて、さすが頑強につつぱつた財務當局者も兜をぬいて十ヶ年繼續事業として明十四年度から本格的に施工することに同意を表明した。飛電は北九州に歡喜の聲をあげしめた。地底を掃するダイナマイトの唸りも坑道を穿つ鑿岩機の響きもたゆる日がなくなつた。眞に路政革新の録初である。青森、鹿

兒島を結び付ける高速度幹線道路出現の日ぞ待望さるる。(路政小僧)

地方議會の論議は道路

問題で賑ふ

舊廳各府縣會が開會されたが廣島でも岡山でも栃木でも其他の縣會でも論議の賑ふた主たる問題は土木事業で其中でも道路問題が第一である。道路の整備なき所に産業は發達しない。隠されたる資源は開發し得ない、道路の不備は硬化した動脈である。國內道路網の建て直しが必要だ、路床の改良も大切だ殊に緊急な仕事は舗装工作だ、舗装せざる道路面に自動車疾走せしめよ忽ち煙幕の如き砂塵は天に滿ち地を掩ふであ

注

本欄は讀者諸氏の利用に提供す、治安と風俗とを害し又は人身攻撃に渡らざる限奇想天外的の寄稿を望む、一文は四百字位にて取捨は編輯子に一任、原稿は道路の改良編輯部宛のこと。

る。敵機來襲時に役立と安心する勿れ衛生上にも農作上にも大害を被らしむるものは此砂塵である。(田舎廻り生)

滿洲でも交通禍が叫ば

れる

見られよ次の一文を「過日某百貨店の四階より街の十字路を眺めた時、目撃した事實であるが、陸續として相次ぐ自動車、バスを筆頭に豆タク、馬車、洋車、それに自轉車と澤山の交通機關整理に低い踏臺を足場にこゝを先途と孤軍奮闘續けてゐる滿縣警官の必死のコー・ストツプの合圖信號は見てゐて涙ぐましいものがあつた、しかるにこの警官の交通整理に従つてゐるものは

僅かに馬車洋車だけで自動車歩行者は殆どこれを無視し、一定の停止地點からはみ出てゐる自動車が如何に多いことか、それに車の直前、直後の無軌道横斷、左小廻り、右大廻りの方向轉換の場合における違反の頻繁なること等々と枚舉に暇のないくらいである。一方人道、車道の見境なく歩行する男女通行人の多いことはこれまた吃驚させられる殊にこれらの違反者は滿人よりも邦人、なかんづく日本婦人、しかも幼児を背負つた御婦人方も加はり、警官汗だくの制止も聞かばこそゴーストツブに目もくれず無視横斷した者は僅かの時間に拘らず實に多數であつたがまことに怪しからん話だ、かういふ風だから交通事故が頻發するのは當然だと思はれる(在滿貧生)

行くわ行くわ竹製品類

の洋行

金屬製品の行き詰りは人間を賢からしむる窮すれば達する竹製のナイフ、フォーク

チヨコレート籠、數物の類が南米から北米から續々大量注文があつて行くわ行くわ南北亞米利加として竹製の食器類が綜合リンクが流産しても必要の前には議論よりは實行が力である。

あるかなきかの珍聞奇

譚(21)

○渡邊華山作の孔子像、愛知縣渥美郡田原町が生んだ維新の偉人渡邊華山の遺作中「一掃百態」ともに、國寶的存在とされてゐる孔子像は十哲像とも、舊藩主を祀る縣社巴江神社の社寶となつて居る。この孔子像は縦四尺七寸、横二尺六寸絹本着色畫で華山四十六歳の作、同畫は彩管を握つてより十三ヶ年間に孔子の思想、行蹟などの調査研究に没頭してやうやく完成されたと傳へら一時藩校に收められ生徒が毎日禮拜を怠らなかつたもので、大正六年ごろ時價三十五萬圓で賣却説が起り、決定せんとしたのを少數の有志が必死の反對運動の

結果同七年に同神社の社寶とし今日にいたつたといふ挿話。

○西土佐先史時代の人骨高知縣幡多郡宿毛町貝塚部落はわが國考古學上有名な存在で本年七月上旬考古學界の權威者西村眞琴氏によつて發掘されたが堀内氏は昨年五月の發掘に引續いて本年七月下旬から約十數日間西村氏とは別に同部落濱田能吉氏の屋敷内の貝塚の發掘を行ひ貝殻類十數種、繩紋彌生式土器破片數十片、石斧、石鏃等の石器、牙鏃一箇、獸骨十數片人、骨二箇を發見、人骨獸骨は早速わが國動物學の權威、奈良女高師桑野久任教授に鑑定を依頼中であつたが三ヶ月半振りの數日前同氏のもとへ次の様な明朗報告がもたされた、獸骨は殆ど猪であつたがこの人骨考古學上貴重な資料で少なくとも約三千年以前の古代人種の下顎の一部と骨蓋前額骨の一部で何れもわれわれ現代人に比して遙かに偉大な體軀の持主であつたことが立證され從來この遺蹟の出土品から古代人種が本縣に生存して

ゐたと考へられてゐた事が確證された譯である。下顎骨は大齒第一と白齒二枚がその儘残存してをり齒の磨滅から老人の骨と推定され頭蓋骨は一邊三型位の正三角形の破片で復原によつて頭蓋骨の大きさを偲ばれる。次に貝塚の集積状態は地表約四尺の基盤原土上に混合介土、牙鏃、鹿角、土器、同破片に混つて石鏃も存在する約一尺の層があり更にその上部約一尺の層には層殆ど介殼に混り、人骨獸骨、土器片(繩紋)があり更にその上部約一尺の層には、土の混入する介殼の中に土器大甕彌生式炭末に混つて鐵鏃があり、その上一尺の層は土表となりこの繩紋、彌生兩土器の出土によつて北方系、南方系兩先住民族の居住が證明され備中の津雲、薩摩の指宿と共に遺蹟としての價値は大きいこの繩紋土器片が彌生氏土器片の下部にあることは北方系民族(アイヌ族)が南方系より前に居住してゐたことを物語るもので本縣先史時代の時代問題解決の鍵を得たものである。

新年と冬の句

初 聲

勅 題

鷗翼に初日かゞよふ鳥わかな
 黒髪の裾の絃月中禪寺湖寒し
 煮凝や罵詈に爛れし舌に消ゆ
 猿の檻にあまねき日さし小春風
 石を切る屑跳ね飛びぬ冬の川
 菜畑に霜濃き朝や筑波晴
 土間深く日の晴れてあり鼈糞
 かゝり人の女美しくし鴛鴦の沓

劇場二吟

青々と開いたか坊主皆冴ゆる

大百をとりて寒けれ灯の鏡

巴 藤

今日三日寒鮒釣りの顔さびし
 小春日や赤蟲はりにつけあえず
 錦蛇の目ばかり動く小春日よ
 泊舟の煙も寒き堤かな
 利にさとき人の眼や年の市
 寒聲や古塔に月の淡き影
 綿入や病みほゝけたる母の肩
 炭屨々空しき火鉢親しげに
 風呂吹や江水くれて旅の僧
 ためらひつ兒猫すてあえず冬の月
 湯豆腐や空しき瓢箪にあり
 義士の遺壘に見入りし冬の日脚哉